

| | | | |
|---------|---------------|-------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先（メールアドレス） | |
| 柘植 あづみ | | | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| 浅川 達人 | | 明治学院大学 社会学部 社会学科 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実習 | MJGa-140802-0 | 13人 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

聞き取り調査の質問項目の作成、調査協力依頼、実施（首都圏と山形県）。録音資料の文字起こし、フェースシートのデータベース入力、聞き取りの文字資料のコーディング、仮説生成、報告書執筆。
時間が限られている中で、熱心に調査を実施して、データ整理と分析をし、報告書を完成させた。よく頑張ったと思う。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

「大人になるとはどういうことか」についての質的調査からの考察

2. 調査の内容／概要：

「大人になるとはどういうことか」について、半構造的な直接面接の聞き取り調査によって、大人になることの要素として推察される要素や調査対象者・協力者の自身の大人像と自己評価を検討して、日本社会において「大人になる」ことがいかなる意味をもつかを明らかにする。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県）の都市部と山形県の中山間地において、それぞれ地大人になることの要素として想定される年齢、仕事（収入）の有無、生活の自立、結婚の有無、子どもの有無、その他の社会的属性等、多様な属性の人を各班（4班）に分かれて聞き取り調査を実施した。

4. 主な調査項目：

(1)想像する大人像、(2)大人になることと、年齢・収入・結婚・親になることなどの関係について、(3)自分のことを大人だと思うか、(3)「大人」であるために得ること、損すること、(4)「最近の若者」像などの質問に対する回答にさらに確認の質問を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県）の都市部において、調査者の知人等からの紹介によって調査対象（協力）者を募り、聞き取り調査を実施したのち、山形県の中山間地（3泊4日）調査対象（協力）者を募って、調査を実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

首都圏調査は6月から8月初旬、山形県調査は8月末に実施した。調査員は履修者全員の15名であった。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

首都圏では30名、山形県では27名に聞き取り調査を実施した。その他、山形県では地域の状況についてもキーインフォーマントから説明を受けた。一人当たり30分から1時間程度の聞き取りで、質的分析に耐える質のデータである。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

すべての聞き取り調査の文字起こし資料とフェースシートのデータを共有し、その一部は、地域・年齢・性別等で傾向を比較検討できるようにアフターコーディングして数量化した。その他の大部分は各班ごとにテーマを設定して、フォーカス・コーディングを行い、議論しながら解釈して、報告書にまとめた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

「大人になること」によって得られた「自由」や人とのつながりなどが語られる一方で、「責任をもつ」ことの大変さや大人になることによって「失う」ことなどが話された。また、日本社会では大人になることが規範となっていること、また自分のことを「大人ではない」とする年長者が少なくなく、その人たちは「大人になること」がある基準を満たすことでは無く追求しつづけるものという「大人像」をもつことや、山形調査では人間関係を、首都圏調査では自立を強調する人が多い傾向があることが仮説として得られた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.31 2015年3月刊行